トヨタカローラ中京

KUO GROUP

SUPER FORMULA LIGHTS

RACE REPORT

Rd.15/Rd.16/Rd.17 @FUJI SPEEDWAY

TEAM TOM'S

REPORT

予選 12/19(土)
5,300名来場

天候：曇り・ドライ / 気温：6-8℃ / 路面温度：8-11℃

2020年の全日本Super Formula Lights 選手権も最終大会、第15、16、17戦が富士スピードウェイで開催された。前戦の鈴鹿大会においてカローラ中京Kuo TEAM TOM'S36号車、宮田莉朋が初代チャンピオンに輝き、そしてチームとエンジンチューナー部門の両タイトルを獲得している。今シーズンを締めくくるイベントのポールポジション争いは、再び宮田と阪口晴南選手の間で繰り広げられた。宮田はベストタイムをマークして第15戦のポールポジションを獲得したが、セカンドベストタイムでは阪口選手が上回り第16戦のポールポジションを奪われ、宮田は2番手グリッドからのスタートとなった。37号車の小高一斗はトップ2人に食い下がったがわずかに及ばず、ベスト&セカンド共に3番手タイムを記録した。しかし、阪口選手がエンジン交換をしているために降格。第15戦はセカンドグリッドからスタートする。

●フォーミュラによる全日本選手権が12月に行われるのは史上初。
●午前9時20分からの予選開始時は、気温と路面温度が10℃を下回っていた。
●宮田は1セット目のタイヤで1分31秒台のタイムを叩き出し、その時点でのトップタイムだった。小高は1分32秒台で3番手につけた。
●若干のセットアップ変更を加えて2セット目のタイヤを装着して再びアタック。宮田は31秒台を2周連続マークするが完全なクリアラップを取れずにセカンドベストタイムでは阪口選手に及ばなかった。
●小高は、32秒0までタイムを伸ばしたが31秒台に突入することはできなかった。
●第17戦のグリッドは第15戦の結果によって決定される。

Driver	Car No.	Qualifying for 15	Qualifying for 16
宮田 莉朋	36	P1　1'31.370	P2　1'31.564
小高 一斗	37	P3　1'32.073	P3　1'32.294

COMMENT

予選 12/19(土) 5,300名来場

天候：曇り･ドライ /気温：6-8℃ / 路面温度：8-11℃

36 / ドライバー

宮田 莉朋

チャンピオンをすでに獲得したからといって気を抜くことなく、今年最後の大会において、全ての予選でのポールポジション獲得、またコースレコードの更新も狙っていました。今回、路面温度がとても低くタイヤのウォームアップが難しかったです。第3セクターまでにタイヤを温めてストレートを走行していると、再びタイヤの温度が低下してしまう状況でした。それが故に1コーナー手前のブレーキングはタイヤをロックさせないようにとても気を遣わなければなりませんでした。2セット目のタイヤでトップタイムを出す事ができたのですが、コースインしたら集団の中でマスタークラスのマシンの後ろだったため、理想のウォームアップができず、アタックに入っても完全なクリアラップが取れずで心残りな予選でした。そして、セカンドベストタイムは阪口選手に0.021秒負けてしまいました。集団の中でなく、クリアなラップならもっと良かったはずです。コースレコードタイムは更新できたのですが、ポールポジションを1つ逃してしまいました。

37 / ドライバー

小高 一斗

今回は走り出しの木曜日の最初のセッションで、ニュータイヤだったとはいえ、トップタイムを出すことができました。気持ち良かったです。12月のコンディションは路面温度がとても低く、練習走行の段階からタイヤの温め方を色々とトライしました。予選が終わってからマシンにトラブルが発生していたことが分かったのですが、それが無かったら1分31秒台に入ることができて、31秒9ぐらいだったのではないかと自分で思っています。2セット目のタイヤでコースインしたらトラフィックの真ん中で、ちゃんとタイヤを温められず、タイヤのピークグリップも逃したタイムアタックになってしまいました。ここ富士はストレートでどうしてもタイヤの表面が冷えてしまうので、タイヤの空気内圧をちゃんと高めて、アタックしなければならないということを意識していました。タイム的には3番手でしたが、第15戦では阪口選手がエンジン交換をしたために5グリッド降格されるので、セカンドグリッド、フロントローからスタートできます。できれば抜かれないでそのまま2位でフィニッシュしたいです。

COMMENT

予選 12/19(土) 5,300名来場

天候：曇り･ドライ /気温：6-8℃ / 路面温度：8-11℃

チーフエンジニア

吉武 聡

今回は、宮田のコースレコード更新とフルポイント獲得を目標として富士に乗り込みました。2セット目のタイヤをセットして、コースインした場所が悪かったこともあり、結果的にセカンドベストタイムで阪口選手に負けてしまいました。ちょうど他のチームも同じタイミングでコースインしたので、ほぼ全車が連なってしまって、クリアなラップを重ねる事ができなかった。クリアラップが取れていればポールを2つ獲れていたでしょう。一度ピットに戻って来て2セット目のタイヤをセットした時は、セッティングの変更は本当に微調整のみでした。1セット目の状況が良かったので変更する必要がありませんでした。小高は、富士における自己のベストタイムを更新しているのですが、もっといけるのではないかと思います。マシンのセットアップでは、ちょっと不具合があった事が影響している部分もあると思います。決勝は予選よりも状況が厳しく、路面温度がもっと低くなる予想もありますが、木曜日の走り出しで路面温度2℃を経験しているので心配はしていません。

監督

山田 淳

今回、富士の走り出しでは小高の元気が良く、木曜日の最初のセッションでトップタイムを叩き出しました。ニュータイヤでの走行ですが、それでも今回は期待が持てると思っていましたが、その後はあまりタイムが伸びずに予選を迎えています。宮田は、チャンピオン獲得後も集中してこの最終イベントに臨むことができています。ライバルの阪口選手との争いでベストタイムをマークしていますが、コースインのタイミングが悪くて、集団の中で思うようにタイムを出せる状況にはなかった。逆に阪口選手は31秒台の2周共にクリアラップだったのでしょう。ポールポジションを2つ獲れなくて残念です。小高も頑張っていますが、宮田とのタイム差をもっと詰めて欲しかった。多少不具合もあったのですが、もう少し頑張って欲しかったです。それが彼の課題です。

REPORT

決勝 12/19-20(土/日) 5,300/9,700名来場

天候：曇り・ドライ 晴れ・ドライ 晴れ・ドライ/ 気温： 5 - 5 ℃ 4-5℃ 6-8℃ / 路面温度：8-8℃ 3-7℃ 20-21℃

カローラ中京Kuo TEAM TOM'S36号車宮田莉朋は、第15戦でトップに立って一気に後続を引き離す、彼の優勝パターンで今季11勝目を記録。最終戦となる第17戦では有終の美を飾る12勝目で今シーズンを締めくくった。また37号車の小高一斗は、第16戦でSuper Formula Lights初優勝を達成した。第16戦のスタート直後の1コーナーでトップに立った小高は、レース中盤で差を詰められるシーンがあったが、その後追ってきた阪口晴南選手を突き放す見事なレース展開を披露してトップでチェッカードフラッグを受けた。カローラ中京Kuo TEAM TOM'Sは、今年最後の富士、全てのレースにおいて2人のドライバーが表彰台に立つ活躍を見せ2020年シーズンを終えた。

●路面温度が低い状況のため、全てのレースでフォーメーションラップは2周行われた。
●宮田はポールポジションから彼の優勝パターンで第15、17戦を優勝。今季全ての大会において、第1レースと第3レースで優勝。ファステストラップを逃したのは17戦中2戦のみ。12勝して獲得総ポイント165点（有効ポイント153点）で初代Super Formula Lightsのチャンピオンとなった。
●小高は、第15戦でセカンドグリッドからスタートしたが序盤で順位を1つ下げてしまって3位フィニッシュ。
●2レース目の第16戦で小高は好スタートから1コーナーで前の2台をパスすることに成功。最大2.5秒あった2位との差は、中盤で1.5秒まで詰められたが、終盤に突き放して1.713秒差で初優勝。
●小高は獲得総ポイント75点（有効ポイント73点）でランキング3位でシーズンを終えている。

Driver	Car No.	Rd.15/ Fastest Lap	Rd.16 / Fastest Lap	Rd.17 / Fastest Lap
宮田 莉朋	36	P1　1'32.399	P3　1'32.223	P1　1'32.569
小高 一斗	37	P3　1'33.134	P1　1'32.252	P3　1'32.951

COMMENT

決勝

12/19-20(土/日)
5,300/9,700名来場

天候：曇り・ドライ 晴れ・ドライ 晴れ・ドライ/ 気温： 5 - 5 ℃ 4-5℃ 6-8℃ / 路面温度：8-8℃ 3-7℃ 20-21℃

36 / ドライバー

宮田 莉朋

ポールポジションを逃してしまった第16戦は、勝つためにストレートでスピードアップできるセッティングにしてもらったのですが、それがブレーキングのスタビリティを下げる結果になってしまい、スタート直後の1コーナーでブレーキロック、その後もブレーキングに悪影響を及ぼすこととなって、順位を下げてしまいました。それでもファステストラップを取ることはできました。そして最終戦の第17戦は、第15戦のセットアップに戻せば勝てる自信があったので、完全に戻してもらい、勝つ事ができました。全ての大会で1レース目と3レース目に勝ち、シーズンを締めくくれた。最終レースでは1コーナーまでに3ワイドになって接触の危険性もありましたが、冷静に判断でき、一旦引いたことでトップに立てたのが良かったですね。昨年は車両規則の解釈によってチャンピオンを獲得できなかったのですが、トムスさん、スポンサーさんのお陰で、今シーズン再びチャンスをいただきチャンピオンを獲得することができました。また今シーズンは新型のマシンをドライブする事ができて、セットアップの面でも多くを学ばせていただきました。今後に生かしていきたいと思います。

37 / ドライバー

小高 一斗

初優勝の第16戦はスタートの反応が良かった。1コーナーまでに前2台のスリップストリームも使えた。その時前に出るのは無理そうだったので、一旦止めました。ボクもブレーキングでタイヤを少しロックさせてしまったのですが、前の2台は完全に止まり切れない状態で、コーナーの奥まで行ってしまったので、前に出ることができました。また、Bコーナーの先でオイルが出ていて、それにボクは右フロントタイヤだけ乗ったのですが、後ろの2台は、競っていたので、完全に乗ってしまって、コースから飛び出すくらい滑っていた。そこで差が開いた。トップを走行すると空気の流れが乱されることもなく、ダウンフォースは良かったし、タイヤのグリップが落ちて来てもペースを落とすことなく走り切る事ができました。1シーズン戦って来て、ダメだった部分を修正し、運も良かった。1コーナーの件、オイルの件など一気に運も向いて来てくれた。でも後半のペースが悪かったら抜かれていたと思いますが、最後までペースを保って勝てました。シーズンを振り返るとチームメイトの宮田選手には及ばなかったけれど、良いお手本が目の前にいてくれたので、沢山のことを学ぶ事ができました。

COMMENT

決勝

12/19-20(土/日)
5,300/9,700名来場

天候：曇り・ドライ 晴れ・ドライ 晴れ・ドライ/ 気温： 5 - 5 ℃ 4-5℃ 6-8℃ / 路面温度：8-8℃ 3-7℃ 20-21℃

チーフエンジニア

吉武 聡

宮田が目標にしていたフルポイント獲得は達成できなかったですが、ポールポジションからのレースではちゃんと勝ってくれました。最終の第17戦では、スタート直後の1コーナーで阪口選手に並ばれて接触の可能性もあったのですが、そこは落ち着いて無理せずに一旦引いて、そして抜き返してトップに立つという落ち着いた判断をしてくれました。さすがチャンピオンですね。そして小高がやっと勝てた。トップに立ってからは速かった。集中力も高く、ゴールまで崩れることなく走り切ってくれました。第16戦は朝一番のレースで、彼自身のコンディションも良かった。他のカテゴリーの走行後に路面のコンディションが変化した時にそれに合わせられる能力がまだ足りない部分があります。この1シーズンで小高は、成長しました。スタートはものにしています。あとは予選における一発の速さと、決勝レースでの速くて安定したペースがあれば、常に勝てるドライバーになれると思います。

監督

山田 淳

小高が第16戦で勝ってくれました。今シーズン1勝もできずに終わってしまうのかと心配していました。1コーナーで宮田と阪口選手が競り合って、その隙に前へ出られたというラッキーな部分もありましたが、その後はちゃんとトップを走り切り、最後は後続を突き放してゴールするという立派なレースをしてくれました。今シーズンの成長が結果として出たと思います。まだまだ課題は山ほどあります。しかし、この1勝がきっかけとなってもっと速く、もっと強くなってくれて、前へ進んでくれれば良いですね。宮田には、できれば3連勝してライツを卒業して欲しかったですが、第16戦のスタートで阪口選手に並んで1コーナーに進入したところまでは良かったですが、そこでタイヤをロックアップさせてしまった。戦いの姿勢は見せてくれました。今年はコロナ禍によってどうなるかと思われましたが、シーズンを無事終えることができ、任務を果たすことができたかと思いますが、来シーズンは通常のカレンダーでレースができることを祈っています。多くの方々に1年間サポートしていただきましたことに感謝申し上げます。